

ふかまちのまど

第一五四号 〇七年〇三月一日
発行元 深町町内会連合会
連絡所 六三三三八八二

……深小だより……

中学校へ向けての決意



伊藤光佑
〇きちんと責任を持って行動する。
卓球部に入り、毎日練習に出て頑張る。

小川由祐
〇新しい友だちをたくさん作る。
ソフトボールでの経験を生かし、野球部で頑張る。

小林健人
〇苦手な理科を特に頑張る、どの科目もいい点がとれるようにする。
英語の勉強も頑張る。

齋藤達也
〇勉強と部活が両立できるように頑張る。
責任を持ち、時間を守って行動する。

田代万桜
〇女子が一人で寂しかったので、女の子の友だちをたくさん作って仲良くする。
陸上部でいい記録をだす。

前田孝尚
〇バスケット部に入って、シュートが確実にきめられるようになる。
予習・復習をきちんとする。

村井寛太
〇野球部の練習を毎日休まず頑張る、早く試合に出られるようになる。
勉強もコツコツと努力する。

深町子どもを守る会

子どもを
みんなで守りましょう



深小の子どもは

〇午後四時頃下校します。

※日によって、異なることがあります。

〇近くで、遠くで、みんなで見守りましょう。

〇あいさつ、声かけをしましょう。

歩く会にご参加を

健康づくり推進員 高崎修

梅林の花見と菰ヶ岩(下組)



下組の梅林も満開の頃と思われまふ。楽しく花見をいたしましう。又、伝説の菰ヶ岩にも立ち寄りまふ。

日時・コース等 三月三日(土)
八時三〇分 町民会館出発
九時 菰ヶ岩入り口
(昆布工場入り口)
菰ヶ岩探訪
十時 梅林着(花見)
十一時 梅林発
十一時三〇分 町民会館着

短歌・俳句・詩

中組 仲峠講 竹内ひろみつ

胸の中重石(おもし)ごと詰まりいて
両手で困(かま)り辛(くる)く咳(せき)入る

病(はな)気(け)すな惚(ぼろ)け(け)などすな年(とし)寄りよ
税(ぜい)上げ(あげ)やろう気(き)合(あ)い入(い)れよと

近頃(ちかごろ)はドラマを見れば目の奥(おく)に
塩(しほ)っぱい物(もの)がじわ(じわ)つと滲(にじ)みて

タイのホームステイで学んだこと

如水館中学校二年生 岡村遊

私は今年の十二月、修学旅行でタイに行きました。多くの思い出があります。中でもホームステイで学んだことが心に残っています。
私は同級生と二人で、ユリさんという学生の家にホームステイしました。初めての経験のうせ、ほとんどタイ語も英語も話せず、私たちは戸惑(戸)うばかりです。そんな私たちに、ユリさんはとてもあたたかく接してくれました。言葉がうまく通じなくても、絵(え)や身振(みぶ)りを使(つか)って、明(あ)るく話(わ)しかけてくれました。おかげで私たちも楽しく過ごすことができました。



今回の旅行で学んだことは、言葉だけでなく、心で通じ合うことが大切だということです。このことに気づかせてくれたタイの友人に、私はとても感謝しています。これからは心から話をしていきたいです。

深の昔をつかしい写真展

「みはら歴史と観光の会」による郷土写真展で、昭和三十八年、三十九年頃の深町の風景等十四点が、次の通り展示されています。

〇会場 サンシープラザ 四階

ふれあい広場

〇展示期間 一月二三日～三月三一日

(編集室) ▲▲

三原市と深町の人口・世帯数・児童数

| 和暦 / 西暦 | 三原市 | | 深町 | | 備考 |
|----------|---------|--------|-------|-----|----|
| | 人口 | 世帯数 | 人口 | 世帯数 | |
| H 2/1990 | 85,804 | 29,922 | 875 | 274 | 71 |
| 6/ 94 | 84,441 | 30,935 | 922 | 304 | 47 |
| 7/ 95 | 84,099 | 31,281 | 983 | 321 | 59 |
| 8/ 96 | 83,673 | 31,535 | 967 | 319 | 59 |
| 9/ 97 | 83,361 | 31,876 | 994 | 333 | 67 |
| 10/ 98 | 83,381 | 32,269 | 1,008 | 338 | 77 |
| 11/ 99 | 83,216 | 32,651 | 1,019 | 359 | 82 |
| 12/ 00 | 83,015 | 32,876 | 1,089 | 414 | 80 |
| *13/ 01 | 82,697 | 33,067 | 1,112 | 433 | 76 |
| 14/ 02 | 82,389 | 33,339 | 1,101 | 437 | 77 |
| *15/ 03 | 82,046 | 33,574 | 1,101 | 440 | 69 |
| *16/ 04 | 81,930 | 33,894 | 1,128 | 446 | 71 |
| 17/ 05 | 105,584 | 42,845 | 1,133 | 448 | 68 |
| 18/ 06 | 105,319 | 43,401 | 1,145 | 454 | 69 |

注 統計数字は毎年12月31日ですが、*印は11月30日です。(児童数は4月現在)

謹んでお悔やみ申し上げます

高崎 弘 様 八五歳
(中組 田屋講) 一月三十日
幸谷 八又工 様 九三歳
(上組 下成瀬講) 二月九日

深町各種団体三月行事予定

- ◆上組町内会 二五日
- ▼親睦旅行(姫路)
- ◆小学校・幼稚園 読み語りの会・保健指導 〇 一日
- ▼英語活動・お楽しみ会 〇 二日
- ▼参観日・懇談会 〇 七日
- ▼集金日 〇 九日
- ▼貯金日 〇 十一日
- ▼六年生を送る会 〇 十五日
- ▼廃品回収 〇 二十日
- ▼卒業証書授与式 〇 二十三日
- ◆如水館中学・高校 卒業式 〇 二十六日
- ▼中・高期末試験 〇 二、四、六日
- ▼中・高卒業式 〇 二十四日
- ▼中・高終業式 〇 二十日

展望席

這えば立て、立てば歩めの親心。生まれて初めて歩けたときの喜びと感激は親も子もひとしおです。歩けることは喜びであり、健康にもよいこと、誰もがよく知っているはずですが、近年の交通手段の発達により、歩くことが少なくなりまふ。深町では、昨年健康づくり推進員のお世話により、「歩く会」が開催されています。この「歩く会」に参加した宗郷四丁目(力石)さんの寄稿文(一、二月号に掲載)にもあります。歩いていると小さな自然の営みを見つたり、目に映るもの、耳にするもの、歩く感触から色んなことを感じ取り、心にも余裕ができ、情緒も豊かになり、自ずと感性も磨かれてくるように思います。皆で歩けば心の触れ合いや親睦も深まらふ。松尾芭蕉が残した心の奥底まで響き沁み込む名句は、長い長い道のりを歩いて旅をした中から自然に生まれたものではないでしょうか。飛行機や新幹線での旅で、わびやさびをきわめることはできるでしょうか。車を運転しながら道端の草花を見ていたり周りの景色に見とれていたり、たちまち大事故を起こします。車に魅せられた暴走族が、野山を歩いているのを見たことありません。歩けば、足も喜び満足することでしょう。心身の健やかな成長の原動力は歩くことにあるのではないかと思います。春よ来い早く来い。歩きはじめたみいちゃん、赤い鼻緒のじよじよはいて、おんもへ出たいと待っている……

深町六年史(十七)

下組 小林 徳蔵

二十九章 一体化のメド立つ

1 「窓口となった」の意味
町内会主導の体制が破綻した後、山中学園移転深町協議会(以下「深町協議会」という)を立ち上げた。この時に深町協議会が深町の窓口となり、深町協議会が「窓口となった」というのは、深町協議会の代表権を持つ主役になり、深町が一体となったのです。

2 「窓口交渉」の意味

とここで、これとよく似ていて「まちが易い用語に「窓口交渉」があります。「窓口交渉」といふのは、例え、会社の場合、いろいろ、経営者側と労働組合側との交渉を定め、日時、場所、参加人員、議題などを打ち合わせます。窓口交渉の権限はここまです。窓口まで主役である経営者であり、労組委員長です。「窓口交渉」は存在しませんでした。

3 課題とどう向き合うか

地域の代表者となった深町協議会は最終の責任を負います。課題と向き合うに当り、次の基本方針を定めました。次の基本方針を軸とした町のすがた(ブランドデザイン)を描く。

盲養護老人ホーム「白滝園」と深の子供達(4)

元深小学校教諭 石井哲代

四

その後は、毎年三月、六年生だけの訪問となりました。その年、その年でいろいろな喜んで頂けるよう工夫して訪問しました。「深の子どもさん、深の子どもさん」と大喜びで待っていて下さるので、すかた。



或る年、学習発表会の種目を披露することになりました。大道具があるのです。河原光浩さんのお父さんの浩さんが「まかせておきんさい」と力強く言っていて下り、軽四を出して運んで下さいました。小林宣康さん、同伴して手伝って下さいました。子どもは、ええことをさせてもらってお陰です。お二人も、涙して感動して下さいました。こうして有形無形に深町あげて子供の活動を応援して下さったのです。

②個々にわたる当面の処理に当り、補強と、このころがけて未来へのつなぐ。このころがけて未来へのつなぐ。このころがけて未来へのつなぐ。

4 伝えることは責務

交渉の途中では多くの決断が必要でした。この際、詳しい記録を綴り、後世に伝えることは責務と考えます。



三十章 新しい展望を開く

1 当面の処理事項 その1

平成四年十一月七日、第四回平成委員会。市役所から土木課古役委員長、市役所から土木課古地主主任が出席。古地主主任から市道深町16号線早期に着工したい旨申し入れがあり、市道深町16号線は、市道園橋を通り下組へ通じる。市道園橋について、地元から園橋下の地下道の高さ、幅の広さの設計変更を要望しました。(後日、要望通りに設計変更する旨返答がありました。)

十一月十日、第五回役員委員会。返事について内容をチェックし、市道深町16号線工事について、交通安全について、山中防園への申し入れに準じて善処された旨申し入れること。

私の白滝園とのつながりは、このような深小勤務時代には出来ていません。退職した五二年、たまたま白滝園の守下事務長さんとお会いし、「器楽合奏など音楽をとり入れてほしい」とのこと。「させて下さいませよ。」週一回、三原駅まで送迎して頂くという条件で改めて始めました。昭和五二年十月二日、園の都合で、二回、今月一回の訪問です。あれから三十年、入居者の変更はありますが、楽しみに待っていて下さることは変わら

九月九日、永年ボランティアとして頂いた表彰状は、全く深町、深小学校あつての事です。「ありがとうございます。」

「深の先生!!」
「深の先生!!」
「深の先生!!」
「深の先生!!」
「深の先生!!」
「深の先生!!」
「深の先生!!」
「深の先生!!」
「深の先生!!」
「深の先生!!」

2 当面の処理事項 その2
十一月十一日、全員協議会。①協定書(原案)を審議承認。②工事説明会の開催を要求すること。

三十一章 協定書調印

1 期日、場所、出席者

十一月十二日、①三原工業高等専門学校、②山深町中学園、③山深町工業高等専門学校、④山深町工業高等専門学校、⑤山深町工業高等専門学校、⑥山深町工業高等専門学校、⑦山深町工業高等専門学校、⑧山深町工業高等専門学校、⑨山深町工業高等専門学校、⑩山深町工業高等専門学校、⑪山深町工業高等専門学校、⑫山深町工業高等専門学校、⑬山深町工業高等専門学校、⑭山深町工業高等専門学校、⑮山深町工業高等専門学校、⑯山深町工業高等専門学校、⑰山深町工業高等専門学校、⑱山深町工業高等専門学校、⑲山深町工業高等専門学校、⑳山深町工業高等専門学校、㉑山深町工業高等専門学校、㉒山深町工業高等専門学校、㉓山深町工業高等専門学校、㉔山深町工業高等専門学校、㉕山深町工業高等専門学校、㉖山深町工業高等専門学校、㉗山深町工業高等専門学校、㉘山深町工業高等専門学校、㉙山深町工業高等専門学校、㉚山深町工業高等専門学校、㉛山深町工業高等専門学校、㉜山深町工業高等専門学校、㉝山深町工業高等専門学校、㉞山深町工業高等専門学校、㉟山深町工業高等専門学校、㊱山深町工業高等専門学校、㊲山深町工業高等専門学校、㊳山深町工業高等専門学校、㊴山深町工業高等専門学校、㊵山深町工業高等専門学校、㊶山深町工業高等専門学校、㊷山深町工業高等専門学校、㊸山深町工業高等専門学校、㊹山深町工業高等専門学校、㊺山深町工業高等専門学校、㊻山深町工業高等専門学校、㊼山深町工業高等専門学校、㊽山深町工業高等専門学校、㊾山深町工業高等専門学校、㊿山深町工業高等専門学校。

2 内容のあらまし

- 第1条 (総則) 四項目
- 第2条 (工事説明 協議)
- 第3条 (安全確保並びに被害の補償) 八項目
- 第4条 (周辺整備他)
- 第5条 (協定の変更)
- 第6条 (定めのない事項)

子ども会だより

期限終了の「無料可燃ごみ処理券」ご提供のお願い

子ども会会長 小川和彦



標記のごみ処理券につきまして、ご家庭にございましたらご提供をお願いいたします。ご提供は、とりまとめて市の方で買取りいただきます。子ども会活動に役立たせていただきたいと思います。

ピッコロだより



先日は地域のみなさんと一緒に、持ちこたうわの地域活動を行いました。地域の方々と一緒に、持ちこたうわの地域活動を行いました。

先日は地域のみなさんと一緒に、持ちこたうわの地域活動を行いました。地域の方々と一緒に、持ちこたうわの地域活動を行いました。

3 協定書の全文

①原本は、協定書第1条総則4項の定めにより、深町連合町内会へ引き継いであります。(注、平成六年九月十日)

4 その他

調印を済ませた深町代表は、役所へおもむき三原市長、建設部、土木課へ挨拶、報告をいたしました。(次号へつづく)

「ふるさと今昔」

元中組 坪見 博文

三年前、三十二年間暮らして来た深町から、ふるさと河内町に移った。近所にはお年寄りばかり、二十才以下の人はいない。小学生も四百五十人だったのが、百数十人とか。



山の中に家と作業場をつくり、一人暮らし。昨年、ドコモ、ポンドフォンの基地局が出来た。過疎の町にも都会と通話出来るようにされている。

お知らせ

「ふかまのまど」の編集は、平岡功一、金重八重子、高崎壽郎、紙谷謹二の四編集委員で行っていましたが、昨秋、高崎編集委員が一身上の都合により退任し、この度、高篠和男新編集委員(中組サンヒルズ講)が就任しました。

期待と現実

砂田吉彦

野球部：僕らは、入学する前から野球部に入るよと決めていた。入部した当時の先輩たちは、前の代から市内大会五連覇、そして練習試合でも滅多に負けない、とても強いチームだった。僕は、そんな強いクラブで野球が出来ることを喜び、自分たちも強いチームになれると信じていた。しかし、その期待は見事に裏切られた。先輩たちが引退し、自分たちが主役となっても、覇気のない練習が続いた。「これで、試合に勝てない」。そんなことを考えながら、迎えた新チームの初試合。僕はケガを先生に隠して試合に出た。結果は0対12と惨敗だった。

その後、僕はケガの手術のために、少しの間サポーターをする側にまわった。チームはというと、あまりな惨敗をしたのに以前とあまり変化はなかった。その後、負ける試合が多かった。これが、僕たちのクラブだった。こんなクラブ活動だったが、すべてが無駄だったわけでは無い。ケガで練習が出来ない時に、球拾いや掃除など、みんなを陰から支えることの大切さを学ぶことが出来た。陰から支える人がいて、初めてその集団が機能するのだと改めて考えさせられた。同時に、物事が自分の思い描くようにならない現実の厳しさを痛感した。この経験を高校や大学、そして社会人になった時に、必ず活かしていきたい。



三年生になって

河原光

一年生と二年生の時、とても楽しいことばかりでした。三年生になってからも、最初は勉強をする気も全然ありませんでした。だから、今になってすごく後悔しています。三年生の初めのころは、まったく気になつていなかったことが、秋を過ぎたころから気になつてきました。自分の将来や高校に受かるのかどうかというところが、心配になつてきたのです。三年生になって、僕は自分がものすごく変わったのが、自分でも分かりました。ズボンもきつとは授業も真面目に受けました。言葉遣いも少しはできるよくなりました。僕も大人にな

つたと思えます。今思うと、一年生のころから真面目にしていれば、今の自分もしれません。でも、今からでも遅くないので勉強を頑張ってください。



私が見つけた宝物

畑中 瑠璃子

私が三年間を通して一番欲しかったものは、白い肌でした。私はテニス部だったのです。でも、これは三年間がなんぼって来た印だと思つています。ぼつちりついたたくつした焼けも。私はテニス部のキャプテンを頼りませんでした。でも、自分でも頼りないと認めるキャプテンでもありません。ある日、一年生をまとめる気がなくなつて練習をやめたことになりました。そのとき、「るりちゃん」がキャプテンでよかったよ。」と励ましてくれた友達がたくさんいました。他の部の人の言葉が助けになつたりもした。私はすごくうれしかったです。キャプテンをやつてよかったと思ひました。



最後の試合、夏季の市内大会。負けそうだったとき、「大丈夫！るりちゃん上手じゃん。」と言われて、がんばろう!!と思つたこともたびたびありました。勝つたときは、「やったね!!」と一緒に喜んでくれてうれしかったです。

そして、私のペアには、「るりちゃん」とペアでよかった。」と言われ、泣きそうになるほどうれしかったです。「なんじゃこいつ」と思つたかもしれないけど、最後まで文句も言わずにペアを組んでくれたことに感謝しています。ありがとうございます。私は、クラブで大切なかけがえのない友達ができました。太陽の光、紫外線がばんばんふりそそぐテニスコート。みんなの音がする。ボールを打つ音がする。私は絶対に忘れない。最高の三年間をありがとうございます。

がんばれたこと

村上 緩 聡

僕はこの三年間、何もかも中途半端にやってきました。勉強にしても中途半端で、途中で投げやりになつてしまひ、すぐにあきらめてしまいました。それでも、クラブだけはできるだけ自分の中でがんばつてきました。一年生の時は、入部してすぐにサーブを中心になんぼって練習しました。二年生になつてからは、県総体に出場しました。先輩はともがなんぼつていたので、結果が出たのだと思ひました。二年生の途中で僕は部長になりました。今までよりもずっとがんばりました。練習はもちろん力いっぱいやりました。声も出してみんなを引っ張りました。そして三年生になりました。最後の試合は一番思い出に残つていきます。1セット目は相手に取られましたが、2セット目は僕たちが取り返しました。運命を決める3セット目は力およばず、24対26で負けてしまいました。けれど、とてもいい試合だったので、バレー部でがんばつてきてよかったと思つています。後輩たちはもつといい成績を残してください。



最後まで心を つなぎ通せ

岩野 志穂

「N・I・C・H・U 二中 ガン」と一発やってみようっオツ！」
一・二年生が歌う応援歌が流れてきた。二回戦の相手は久井中だった。久井中とは練習試合でも負けたことがなかった。そのせいか私たち六人は、「今回も絶対勝つ。勝つてやるぞ」と意気込んでいた。
いよいよ第一セットが始まった。いつもの練習試合だったら点差は開く。しかし、今日は久井中がリードしていた。久井中も今回の引退試合には、今までも以上の力を入れてるのだから、残念ながら、一セットはとられてしまった。けれど、みんなで気持ちを入れ替え、「次は絶対に勝つぞ」と二セット目に臨んだ。二セット目はミスをしながらかも勝つことができた。しかし、次の三セット目が勝負。だから、

「次も絶対に勝とう」と決心した。しかし、負けた。久井中の喜ぶ姿を見て、腹立たしさと悔しさでいっぱいになった。試合が終わって泣いた。試合前からの腰の痛みで力を十分発揮することができなかった私。後悔……。

でも、これだけは言える。三年の一学期に、もめごともあったけれど、最後までこの6人でバレーボールをやれてとても良かった。楽しかった。今ではいい思い出になっている。みんな三年間ありがとう。そして今までも指導してくれた山田磨美先生、一・二年生ありがとう。

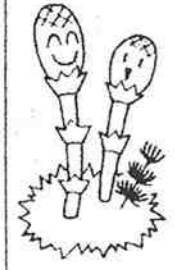


謝辞・シェイシェイ

小川 夏歩

私は、友達にすごく感謝しています。中学校に入りたての頃、誰も話さないで、机に向かっ

てずつと本を読んでいたら、そつと声をかけてくれました。「ねえ、どこの小学校卒？」その言葉が、深小以外の人から声をかけられた一言でした。今までは、おさななじみと行動していたけれど、その日から、その友達と行動することに……。初めはぎこちなかった言葉遣いも、いつの間にかよびすてにするほどに。日がたつにつれて友達もだんだんと増えていきました。「楽しい」。素直にそう思える日々が続いていました。「勉強より友達！」本気でそう思つて、毎日は三日坊主……。休みは町にくり出して、夜遅くまで遊んでいました。二年生になつて、その子とはクラスが離れてしまったけれど、同じクラブだったのでワイワイさわげました。しかし、冬休み：彼女は学校をかわりました。気持ちはいつまでもたつても落ちつかず、パニック状態のままでした。三年になつて、また新たな友達ができました。初めの頃はストレスで体調不良に一月なつた時期もあったけれど、皆と同じクラス、同じ学年になれてよかったです。私は、ガンコで強がりワガママ、自分で自覚してきます。こんな私と友達として付き合ってくれて感謝しています。「ありがとうございました」。



その一瞬のために

前田 依里

わたしはこの三年間、音楽室で教室よりも長い時を過ごしました。一年生の時からずっと、朝も昼も放課後も……

毎日毎日練習日。いくら頑張っても休みはなく、楽しみにしていた夏休みさえも、コンクール出場のために最後の二週間ほどしか休みはありませんでした。初めは13人だった同級生も7人。大きく見えた先輩の立場に自分が立つようになった時には、以前はカチコチになっていた先輩を見て笑っていたのに、今度は心臓がとび出てきそうなほど緊張していました。

コンクールの曲にはなかったソロも、ほかの曲にはあつて、わたしがいけない曲でもやらなうわたりといけませんでした。わたしは、ソロには特別な思い出があります。文化祭の前にも発表の場は何度もありました。自信のないまま文化祭当日を迎えてしまいました。

その日、わたしはキーラの演奏のころになると、指が硬くなって心臓が曲のテンポを追いこすぐらい速く動いていました。立ち上ると震えも止まりませんでした。だんだんソロが近づいてきて、ついに始まりました!!。できる限り前を見て、「誰もわたしを見ていない」と言い聞かせて。終わった時には頭が真っ白でした。一瞬、力を入れ過ぎたせいか足の痛みを感じました。後輩のソロが始まるまで何も考へることはできませんでした。でも、しばらくするとわたしの胸は充実感でいっぱいでした。「楽しんで演奏できた」と思えたからです。

一年生のころから欠かさず通った音楽室。あれから三年……わたしたちは、優柔不断で何をすることも人の意見を聞いてばかりでしたが、最高の思い出ができました。

今まで、ありがとうございました。

に出ない時はコートの外から応援していたが、実際コートに入つてプレイをすると、サッカーの難しさが分かった。僕は朝練とがんばった。僕達が三年生になつたらチームを引っ張つていけるようになるんじゃないかと思つた。

そして僕達は三年生になつた。これからは僕達がチームを引っ張つていくんだと気を引き締められた。試合でも僕達三年生が中心になつてチームを盛り上げた。

こうして、僕達三年生は、最後の市内大会を迎えた。僕達は一試合目を勝ち、南部大会への出場が決まった。南部大会一回戦の相手は、春に県大会に出場した栗原中学校だった。試合は前半から栗原中学校のペースで、チャンスは作るものの点にはつながらなかった。後半もやはり流れは変えられず、僕達の最後の試合がここで終わった。

思い起こせば、僕は特に理由もなくサッカー部に入ったが、今では僕の中ではサッカーは大切なものになつていた。みんなと協力する大切さがよく分かつた。またみんなとボールが蹴りたい。



別れを告げた白球、ここに尽きる

岡村 崇裕

僕は野球部に所属して、キャッチボール以外に球拾いとか、声を出したとか、はつきり言つて退屈でした。それよりもトンポでグランドを均すのが一番だ。初めは、慣れると、もうそれがだるいじゃなく、当たり前と球拾いも捕球の練習と思えば、退屈ではなくなつてきました。

しかし、二年生に進級すると、練習がだるくなつてほとんどさぼりました。まあ週に三、四日休んでいました。一週間に一度も出なかつた時もありました。その理由は僕は野球が嫌いだったからです。

でも三年生になると、なぜか野球に熱中し始めました。そのきっかけは、僕はバツティンクはおもしろくないけど、ノックなら楽しくできると気付いたことです。もう一つ分かつたことがあり、嫌いなやつは、僕は野球が嫌いだつたのだ、ということ

サッカーと僕

中重 雄太



僕の三年間のクラブ生活は、南部大会一回戦敗退で終わった。入学して僕はすぐにサッカー部に入学した。入部したばかりの頃は、ただボールを蹴つて、グラウンドを走つた。

三年生が卒業して、僕は試合に出られるようになった。

を。そして、試合では守備を中心に頑張ってきました。ちなみにサイドを守ってきました。ちなみだバツティンク面では、26打数0安打という結果で終わりました。公式戦は代打で一打席打つただけです。できるだけ守備で出たほしかつた、というのが今の正直な僕の気持ちです。三年間野球部で活動して、協力することの大切さやマナーを学びました。それよりもあの時練習してきた事が懐かしくなってきました。あのころにはもう戻れないけど、僕にとつてはかけがえない「宝物」となりました。みんな、ありがとう。野球よ、ありがとう。そして、さようなら。

この心は二中とともに……



BEST★友達

追 菜津美

私には、二年の終わりに出逢った友達がいます。その友達とは、同じクラスだったのに二年の終わりで、その友達の存在に気がつきませんでした。今では、その友達と早く出逢つていれば……と、後悔しています。

初め、その友達は、「明るくておもしろい子だなあ……」でした。正直、このテンションについていけないかなと思つた笑。でも、毎日毎日一緒に過ごしていくうちに、かけがえない友達になつていきました。

ただ……クラス替えの時、「ちがう……」。その友達とは、同じクラスじゃありませんでした。もうクラスが違つても毎日休憩時間などに、一緒に過ごしました。とてもとても、幸せな時間でした。

その友達は、いつもいつも私の相談に熱心にのつてくれました。自分の事で、精一杯だったと思うのに、私の話や悩みばかり聞いてくれました。とても感謝しています。その友達とは、Kさんです。Kさんの言葉や存在は、私にとって一番の支えになつたと思います。Kさんに出逢えて、本当によかったです。思っています。

Kさん、私に出逢つてくれてありがとう。ありがとう。言葉が足りないかもしれません。本当に、本当に感謝しています。みんな!!本当に、ありがとう。

たくさんさんの思い、今更にかきこ

馬越 翔大

僕は勉強には少し悔いがあるけど、学校ではもつと大事なことを学びました。仲間と支え合いました。だから、二中は僕の大切な思い出がいっぱいあったものとなりました。

つらいこととは、学校の授業を聞くことでした。唯一、保健の授業が楽しかっただけです。他の授業は、聞いていても意味が分からず、五十分とても憂鬱な時間でした。それは、僕の勉強不足のせいでした。

高校生になったら、気持ちを改めて一からがんばるつもりです。



友達と

村井 洸太

僕は、二年の後半からバスケット部に入りました。バスケット部の練習は、思っていたよりもきつくと大変でした。シュートやドリブルがうまくいかなかったので、みんなが帰ったあとも一人で練習をしていました。休みの日の練習では、一時間か三十分前から、友達にシュートの構え方やドリブルのコントロールの仕方などを教えてもらっていました。バスケット部のチームワークはクラブの中で一番です。いいプレーをすれば、「ナイス。」と声をかけ合います。悪いプレーをしたら、悪いところを徹底的に指摘し合いました。

僕には、思い出に残っている練習があります。一対一の対決をしたこと。両チームの力は同じぐらいにして、ルールは、「先に二本シュートを決めた方が勝ち」というものです。でも二本シュートを決めるのは大変でした。同じフェイントがきかないので、シュートを決めるのは難しかったです。

苦労したことも、楽しかったこともたくさんあります。そして、何よりも力を合わせて協力できて、よかつたと思つています。僕はこんな友達とプレーができて最高でした。

※三原市立第二中学校三年生の卒業文集から、深町関係の生徒のものを掲載しました。(編集室)